

## 巨大紙芝居

シーン①



石破・自公政権は、「原発依存社会」に向かって暴走しています。電力総連を支持母体とする国民民主党を始め、野党の一部もこれに積極加担しています。

自公政権は、2023 年 5 月末に成立させた「GX 脱炭素電源法」を、去る 6 月 6 日に、完全施行し、原発依存を加速しようとし

ています。

また、自公政権は、「GX 脱炭素電源法」の実態化のために、「原発の最大限活用」を明示した「第 7 次エネルギー基本計画」を、2 月 18 日に閣議決定しました。

許してはなりません！

シーン②



GX 脱炭素電源法は、既存原発の再稼働、40 年超え運転を加速し、老朽原発の運転を促進するものです。

この法律の下で原発が稼働されれば、2030 年には、国内の稼働可能な原発 33 基

の内の 17 基が老朽原発になります。

老朽原発で膨大な利益を得ようとする策略です。

許してはなりません！

シーン③



GX 脱炭素電源法では、原発運転期間の認可権限を、原子力規制委員会から原発推進の経産大臣に移しています。

また、再稼働審査での停止期間などを「運転期間」から除外・上乗せすることで、原発

の 60 年超え運転を可能にしています。

例えば、12 年間停止していた高浜原発 1 号機は 72 年も運転できることになります。

「最悪!」、「最低!」です。

シーン④



自公政権は、「第6次エネルギー基本計画」までは「原発は、段階的に縮小していく」としていましたが、石破政権が閣議決定した「第7次エネルギー基本計画」では、それを削除し、「原発の最大限活用」を明記し、

既存原発の再稼働、40年超え運転を加速し、60年超え運転の拡大、原発建て替え、新設も画策しています。

これも、「最悪!」、「最低!」です。

シーン⑤



一方、関西電力・関電は、老朽原発依存経営の泥沼にのめり込んでいます。関電の稼働可能な原発7基の内5基が、今年中に老朽原発となります。すでに50年を超えた

高浜1号機、もうすぐ50年超えの高浜2号機、美浜3号機は超老朽原発です。

危険極まりない老朽原発運転の暴挙を許してはなりません。

シーン⑥



原発を長期運転すると、配管の腐食、減肉が進み、地震などの衝撃によって破断する可能性が高まります。とくに、高温・高圧の一次冷却水が流れる配管が完全に破断すれば、原子炉水が噴出し、原子炉が空焚きになりメルトダウンに至りかねません。

また、老朽原発では、圧力容器の脆化が著しく、緊急時に圧力容器を急冷したとき、圧力容器が破損し、福島第一原発事故以上の大惨事になりかねません。

ボロボロ原発は即時廃炉にしましょう!

シーン⑦



14 年前の東日本大震災に起因して発生した東電福島第一原発事故は、原発は、地震や津波に脆弱であることを、大きな犠牲の上に教えています。

それでも政府や電力会社は、あまりにも低い耐震基準で原発を運転しています。

各地の原発の「耐震基準」は、大きくても 1000 ガルです。これと、今までに発生し

た地震の大きさ、例えば、2008 年の岩手・宮城内陸地震の 4022 ガル、2011 年の東日本大地震の 2933 ガル、昨年の能登半島地震の 2828 ガルなどを比較すれば、原発の地震に対する脆弱性は明白です。

大地震は、いつ、どこで、どの規模で発生するか予知できません。

一刻も早く原発を全廃しましょう！

シーン⑧



能登半島地震が教えるように、大地震では、道路が寸断され、5 m もの地盤隆起も起こり、放射線モニタリングポストの多くが測定不能になり、避難は困難を極めることが実証されました。

また、多くの家屋が全壊、半壊などの損傷を受けます。余震によって倒壊の危険性があり、停電、断水している屋内での退避は不可

能です。

福島第一原発事故では、最大時約 16 万 5 千人、本年 2 月でも約 2 万 8 千人が避難を余儀なくされています。政府は、避難指示を解除し、帰還を促していますが、高放射線地域に帰還を希望する人はわずかです。

人の命と尊厳を脅かす原発はあってはなりません！

シーン⑨



今、使用済み核燃料を貯蔵する燃料プールが満杯になろうとしています。例えば、関電の燃料プールは、2 年半～6 年後に、高浜、大飯、美浜の順で満杯になります。

燃料プールが満杯になれば原発を運転できなくなるため、電力会社や政府は、放射線量と発熱量が減少した使用済み核燃料を乾式貯蔵に移して、プールに空きを作ること躍起



です。

乾式貯蔵に移した使用済み核燃料の行き場として関電が稼働を願望している再処理工場の稼働の見通しはありません。したがって、

乾式貯蔵を許せば、原発敷地内での永久貯蔵になります。

キケン極まりない使用済み核燃料の発生源  
・原発を全廃しましょう！

シーン⑩

## エネルギー政策の失敗 原発依存社会への暴走



「原発依存社会」への暴走は、原発政策の失敗を取り繕うためです

もし、東電福島原発事故以降の政権や電力会社が、事故の教訓を生かして、原発ときっぱり決別し、自然エネルギーに切り替える政策をとっていたなら、今頃、化石燃料や核エネルギーに頼ることなく電気を供給し、世界の自然エネルギーへの流れをリードできたでしょう。

もとを質せば、人類のエネルギーに対する欲望のために、原子核に閉じ込められた膨大なエネルギーを解放しようとするから、原発過酷事故が起こり、危険極まりない使用済み核燃料が発生するのです。

また、地球が数億年かけて地中に蓄えた化石燃料を 100 年程度で枯渇する勢いで使うから、炭酸ガスが増えるのです。

シーン⑪

## 原発依存の政治を変えよう！ 自然エネルギーのみで成り立つ社会を！



失敗を反省せず、原発推進へと暴走する政府と電力会社を厳しく糾弾し、自然エネルギーへの転換を求めましょう！

自然エネルギーのみを利用すれば、燃料費はほぼゼロですから、コストは原発に比較して圧倒的に安いのは当然です。

また、自然エネルギーのみの利用は、地球環境の保全にも貢献します。さらに、自然エ

ネルギーは、供給が国際情勢の影響を受け難い自前のエネルギーです。大地震が発生しても過酷事故に至ることもありません。

地震に脆弱で、過酷事故を起こしかねず、数万年もの保管を要する危険極まりない使用済み核燃料を発生させる原発の全廃を求めて、大きな声を挙げ、行動に起ちましょう！

この巨大紙芝居は実行委員会が創意工夫して 6・8「もうやめよう あぶない原発！ 大集会 in おおさか」の集会で、披露されたもので、横 4,7m、縦 90cm の横断幕 11 枚で構成されています。

老朽原発うごかすな！実行委員会

